

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 2月25日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000177
法人名	特定非営利活動法人 環境福祉サービス
事業所名	グループホーム ヴィラおたつめたつ
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町納官5173番地 (電話) 0997-24-8557
自己評価作成日	平成30年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームヴィラおたつめたつの基本理念と月間目標を毎朝復唱し意識を持って利用者様に支援している。月1回は苑外活動として出かけたり、日光浴も兼ねて苑庭でも体操・レクレーションを取り入れている。また食事形態も個人に合わせて変更している。消防計画を昨年より多くして計画にそって行っている。家族や地域との交流も多く利用者様も安心して生活できている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは町の中心地より少し離れた国道沿いの閑静で広大な小高い場所にデイサービスや障害者施設と共に設置されており、眼下に海原や島々が望める。建物内は明るく、共有部分及び居室共にかなり余裕ある広さが確保されている。開設以来、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域や小学校の行事への参加やボランティアの受け入れ、他施設との交流に努めている。法人全体で実施する福祉まつりには、多くの住民の参加が得られて地域ぐるみの交流が図られており、利用者も作品の展示や舞台演技を発表して自己肯定感の修得や自信に繋がっている。また、地域住民のホームに対する信頼も厚く協力体制も構築されており、災害発生時にホームを支援する「お助け隊」も編成されて、日常的に交流が図られている。

○管理者及び職員は、ホームの理念に沿って、尊厳や誇りを大切にしながら敬愛の気持ちで一人一人の想いに寄り添い、利用者が日々幸せを感じながら健康で平穏な生活が過ごせるように取り組んでいる。利用者及び家族の想いや要望等に対しては、ミーティング等で全職員で検討・協議を行って個別のサービスも十分に取り入れながら利用者主体のサービスの向上に務めており、利用者及び家族との深い信頼関係が築かれている。

○管理者は、日頃から職員との信頼及び協力関係の構築に努めており、自由に意見を述べ合ったり協議できる体制が築かれて運営やサービス向上に活かされている。また、職員のスキルアップを図るため、職場研修の実施や外部研修への参加、資格取得へのバックアップに努め、職員が抱える諸事情にも細かに配慮し、有給休暇の完全取得を推奨するなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝。朝礼時に基本理念と月間目標を唱和することで意識をして仕事につなげている。	一昨年全員で見直して作成した、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、毎月のケア目標と並べて事務所やフロアに掲示し、朝礼時の唱和やケアの振り返りを行って理念の意義を共有している。利用者の尊厳を大切にしながら想いの把握に努め、利用者の立場にたった支援の実践に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間計画に地域行事の参加計画を入れて集落や小学校の行事に積極的に参加している。	地域との繋がりを大切に、集落の行事や小学校の運動会や相撲大会、入学式、卒業式等に積極的に参加している。法人主催の福祉まつりには、利用者の作品の展示や舞台発表を行い、家族や多くの地域の人の参加による交流と認知症高齢者や障害者に対する理解の場になっている。また、ボランティアによる慰問を隣接のデイサービスの利用者と共に楽しんだり、日頃の散歩や買い物時の会話、農作物を頂くなど日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ミーティングや研修等で職員の知識を高め地域の人や家族に対応出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回（年6回）開催して利用者様の状況や行事報告を報告して意見交換を行い運営に生かしている。家族会の際は一緒にいき家族代表以外の家族の方にも参加してもらっている。</p>	<p>会議は家族、公民館長、民生委員、町担当職員、駐在所職員等が参加して定期的で開催しており、ホームの現況や災害発生時の対応等の報告を行い、委員からは地域の情報や災害時の対応、介護に関する意見や質問等が出されている。行政からの制度説明や警察官による不審者対応の講話などの研修も実施している。会議を家族会と同一日に開催して家族の理解や意見をもらうなどの工夫も行って、サービスの向上や業務の改善に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会や入居判定委員会に参加してもらったり、行政や地域包括が主催する研修に参加したりして助言・指導をもらっている。</p>	<p>町担当職員には運営推進会議に出席してもらうと共に、介護保険の更新時や、ホームの運営やケアに関する相談や手続き等日頃から密に連携を図って助言や指導を頂いている。町主催の会議や研修会、ケアマネ協議会等にも積極的に参加して、行政や他施設職員と情報や意見の交換を行うなど協力関係が築かれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の研修をミーティング等で行ったり身体拘束が必要な利用者様にはサービス計画に入れて家族の同意をもらい計画変更時見直しを行っている。</p>	<p>身体拘束を行わないケアを心がけ、利用開始時に本人及び家族に理解を得ている。職員は「施設内人権侵害防止に関するチェックリスト」でケアを振り返り、身体拘束対策委員会での意見交換や勉強会の実施、また、外部研修にも参加するなど、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。昼間は玄関や居室の施錠は行わず、寄り添いや対話で利用者の思いを把握して、安全で自由な暮らしの支援に努めており、地域住民の理解と協力も得られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	系列の事業所と一緒に代表委員が勉強会を行い各事業所のミーティング等で研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	系列の事業所と一緒に代表委員が勉強会を行い各事業所のミーティング等で研修を行っている。利用者・職員にアンケートをとって支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書・重要事項説明書の読みあわせをしながら確認してもらっている。変更時や退所時もその都度納得してもらうまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や要望が出やすいような行事や声掛けを行っている。出た時はすぐにミーティングで話し合ったり家族計画に反映している。	利用者の思いや意見は日頃の暮らしの中での会話や表情、仕草等のサインで理解に努め、家族の意見や要望は来訪時や電話連絡、家族会、運営推進会議時に対話に努めて把握している。要望や意見は、「ご家族からの連絡帳」等で共有を図り、全員で話し合っ改善するなど、ケアに具体的に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング等で職員から出た意見を管理者が主任会・理事会で代表者に報告・提案して運営に反映している。年度末には個人面談や自己評価等で話を聞く時間を作っている。	職員は自由に意見を述べられる関係が構築されており、日頃のケアの中や引き継ぎ時、ミーティングでも十分意見交換がなされ、また、年一回自己評価及び個別面談も実施して思いや意向を把握して改善に努めている。勤務表作成や外部研修の受講については職員の希望を可能な限り反映させ、職員のスキルアップや資格取得等のバックアップに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年度末の自己評価や主任会等で把握している。職場環境では倉庫を作ってもらったりパートから嘱託職員に昇級したり産休制度を作ったり条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任会・理事会・年度末の自己評価等で職員を把握して研修等も希望すれば積極的に受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所等と交流や勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族にこれまでの生活歴・健康状態・要望等を聞いて計画に反映することが出来るようにしている。事前に見学に来て頂いたり契約時ゆっくり話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所判定委員会で病院・ケアマネの意見や入所前の面接時ゆっくり聞き取り細かい事も話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態・ADL・生活環境等を十分に聞き取り状況を把握した上でケアプランを作成して状態に合わせ他施設利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を見極め自立に向けて出来る事を増やしていけるように計画や支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や状況は常に通信や面会時家族に連絡・報告している。盆・正月には帰省や面会に来ていただいたり居室に泊まってもらったりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように電話や面会時居室等でお茶を飲んでいただいたりして滞在できるようにしている。	利用者の馴染みの人や場を把握し、関係が途切れないように家族や友人、知人との電話や訪問による交流の支援に努めており、家族の宿泊による交流も積極的に受け入れている。買い物や外食、墓参、一時帰宅、祝い事や法事への参列など個別的な交流も家族と協力して馴染みの人や場との関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中には体操やレクレーションに全員が参加できるようにしたりして一緒に活動できるプログラムを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了して亡くなったり他施設に移動した方も家族の相談には応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス計画変更時や日常こまめに声掛けや話をして希望・意向を把握している。	入居時に利用者や家族の意向を把握し、入所後は日常の会話や仕草等も参考にしながら思いの理解に努め、その人にとって最善のケアとなるよう取り組んでいる。ぬり絵等の趣味や得意な作業(洗濯物たたみや菜園の手入れ他)など余暇時間の過ごし方についても、利用者の希望に添った生活となるよう、健康に配慮しながら個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん家族や関係機関の方に話を聞き生活歴や環境を把握してできるだけ維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々目配り・気配りで様子観察をして引継ぎで継続して行うようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族とは日頃の話から意向を把握して支援経過やモニタリングを参考にしてケアプランを作成している。また主治医に受診時や更新時意見書をもらいプランに入れている。	本人・家族の希望や主治医及び職員の意見を把握し、課題の分析やケアの方法を協議して、きめ細かな内容の介護計画を作成している。支援の実施状況は「業務日誌」「バイタルチェック表」等で情報を共有し、モニタリングも毎月実施している。利用者の身体的な状況の変化に対応して、実状に即した介護計画を作成して支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・介護記録・連絡帳等の記録で状況・体調の変化を把握してミーティング・朝礼で共有して見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や家族の宿泊など可能な限り柔軟なサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体に来て頂いたり、行政や民生委員・消防・警察・地域のお助け隊の方々に協力してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時・定期受診は職員で対応している。受診時には日々のバイタル表等で病状判断や服薬の変更に繋げている。受診後は家族に連絡して記録や申し送り職員と情報の共有を行っている。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。定期的な通院や専門医の受診等は職員がバイタルチェック表を持参して対応しており、病状や受診結果については家族にも報告するなど密に連携を図っている。利用者の病状や受診結果は「介護記録」や「業務日誌」等で情報を共有し、各医療機関との連携体制も構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日記入している日誌のタイトルや行動の変化で気付いた事を医師や病院（看護師）に相談して適切な受診が出来るようにしている。</p>	/	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際にはその都度、情報提供書医療機関に提出している。面会や電話でも情報交換や相談をしている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化ケア対応方針」の説明を行い同意書をもらって確認している。看取りは行っていないが経口摂取可能な限り支援している。</p>	<p>重度化や看取りに対するホームの取り組みについては、利用開始時に「重度化ケア対応指針」で説明して理解を得ている。看取りの実施は行っていないが、重度化した時点で家族に病状やケアについて再度説明して対応を検討している。看護師が2名在職することで職員の不安の軽減やスキルアップが図られ、可能な限り本人や家族の希望に添った支援に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応は定期的に研修や訓練を行っている。（AEDや防犯ブザー付き携帯使用）</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（夜間含む）の際には地域消防団・警察・近隣住民（お助け隊）に参加してもらい協力体制を築いている。備蓄は3日分の食糧と水、備品はAED・担架・防犯ブザー付き携帯を確保している。	地域消防団や警察、住民で構成するお助け隊等の協力を得て年2回、通報消火、避難等の訓練と総合訓練を実施しており、消防団による消火器等の取扱いや災害発生時の留意点等の研修も行われている。また、毎月計画的に自主訓練や緊急連絡網及び避難経路等を点検し、日頃からマスコミによる災害を事例に意見交換して意識を高めている。AEDや担架、防犯ブザー付携帯、懐中電灯等の備品を整備し食料や水も3日分備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護のアンケートや年末の自己評価等で各自確認しながら日々努力している。	日頃から利用者の尊厳や人格を尊重したケアに努めており、人権擁護に関するアンケートの実施や人権擁護委員会での意見交換、職員の自己評価等で意識を高めている。排泄や入浴、衣服交換、居室への入室時の言葉かけやケアに際しては細かに配慮して取り組んでいる。居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造で、台帳等の管理も適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で思いや希望を聞き出すような時間を作っている。ミーティング等でチーム支援が出来るように計画を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は体操やレクリエーションを一緒に出来るようにしているが、午後からは一人ひとりのペースにあわせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合わせた衣類の調整や、足りないものや欲しいものは家族にも協力してもらっている。散髪も美容院に隔月来て貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を考慮した献立を立てて、食事形態も本人に合わせて変更している。エプロン畳や配下膳の手伝い・台拭き等も一緒にしている。	利用者の好みや摂取制限、形態、栄養バランス、季節感等に配慮し、栄養管理委員会で話し合ってメニューを決めている。季節の行事食や家族との会食、外食、手作りのおやつ、苑庭でのお茶等、食事が楽しみなものとなるよう工夫し、職員も一緒に歓談しながら食事している。食材の下処理や下膳、台拭きなどは利用者も一緒に楽しみながら行い、また、利用者毎に食事の摂取量や水分補給、服薬等に配慮し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に記録して一人ひとりの状態にあわせ食事形態を変えたりエンシュア等の栄養補助食品も補給している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後は必ず口腔ケアを行い義歯は夕食後一晩洗浄剤に浸けて消毒している。必要な方には歯科受診や訪問受診してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下肢筋力低下を防ぐ為体操・歩行訓練（歩行訓練表）を行っている。定時での排泄介助により失敗をなくしトイレでの排泄が出来るようにしている。	利用者毎の排泄パターンや身体状況等を把握し、便秘の予防にも配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。トイレ誘導時の言葉かけに際しては特に羞恥心や不安感の軽減に気遣い、利用者の状態に添った介護用品や支援方法を専門業者にも相談して、介護計画に反映させて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動による自然排泄に取り組んでいる。排泄表を付けて必要な方にはかかりつけ医師に相談して服薬調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調を見ながら隔日で入浴している。浴槽にゆっくり浸かって貰い入浴剤も入れている。重度の方には2人体制で安心して入れるようにしている。	利用者の健康状態を把握し、足浴や清拭も含め隔日毎の入浴を支援しているが、排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔の保持に努めている。入浴の時間や温度、同性介助等も利用者の希望に添って柔軟に対応し、皮膚疾患の手当も行い、ゆっくりと入浴を楽しめるように取り組んでいる。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間や声掛けの工夫を行って、利用者自身が入浴への意欲を持つまで待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が自分のペースで休息や睡眠が出来るようにしている。ホールにはソファを置き休めるようにしている。夜間眠れない方には医師と相談して服薬調整している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や目的は随時連絡帳やミーティング時に理解できるように対応している。排便調整は特に日々行っている。医師との連携も出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月レクリエーション計画に組み入れるようにしている。野菜を植えたり花壇の草取り・洗濯物畳なども行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日頃から苑庭で体操や日光浴を行っている。家族に協力してもらい墓参り等出掛けている。月1回の苑外活動では体調を見て全員が出掛けられるようにしている。	花見や福祉まつり、相撲大会など地域及び学校行事への参加やドライブ等の外出を毎月計画して気分転換を図っており、墓参、一時帰宅等、個別の外出は家族の協力を得て取り組んでいる。日常的に苑周辺の散歩や苑庭での日光浴及び体操等の外出を利用者の意向に添って支援しており、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な方が多いため事務所で管理している。本人の希望があるときは、一緒に出かけたり代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	居室に電話がある方は好きな時に掛けることが出来ている。居室にない方は事務所で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭では海を眺め日光浴や体操をしている。テラスではロケット打ち上げを見ることが出来、ホールも天井が高く開放感がある。各居室にクーラーがあり夏はよしず、冬は加湿器等で気温調整を行っている。食堂ではテレビやDVD・カラオケを行っている。	玄関や、ホール、廊下などの共用空間は余裕ある広さで、吹き抜けの天井に天窓も設置されて解放感に満ちて明るく、異臭や空調、整理整頓等に十分な配慮がされている。随所に手作りの作品や行事や外出時のパネル写真、生花等が飾られ、また、テーブルセットやテレビ等の家具が利用者の動線を考慮して設置されており、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。苑庭から海が望め、多種の樹木が植えられ菜園や花壇も設置されており、利用者は四季を感じながら好みの場所で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファやイスで思い思いの時間を過ごせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本居室にあるものは家から持ってきてもらっている。（家具・電化製品・位牌等）	各居室は畳敷き部分とフローリング部分を併設した構造となっており、掃出し窓仕様の余裕ある広さで明るく衛生や整理整頓に配慮した支援に努めている。利用者は自宅同様に安心して過ごせるように使い慣れたベットや収納家具、ソファ、家族写真、小物等を持ち込んで、その人らしい落ち着いた空間が整備されている。各居室の入り口には、間違いや戸惑いがないように名前や写真を貼る等の工夫がみられる。時々家族も宿泊して親密な交流を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には自分の居室だとわかるように名前・顔写真を貼り共同の場所には案内板を表示している。動線には危険な物を置かないようにしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない